

平成26年度全国学力・学習状況調査

< 長崎県の結果の概要 >

調査の概要

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施対象

県内国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。

小学校調査...小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校調査...中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

【国語A、算数・数学A】	【国語B、算数・数学B】
<p>主として「知識」に関する問題</p> <p>身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題</p>	<p>主として「活用」に関する問題</p> <p>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題</p>

(2) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を実施	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査期日 平成26年4月22日(火)

5 調査実施校数及び児童・生徒数

(1) 実施校数 530校(調査対象者の在籍する学校の総数 530校)

(小学校:348校、中学校:182校)

(2) 参加児童・生徒数

小学校6年生 約12,200人

中学校3年生 約12,700人

全国学力・学習状況調査「結果の概要」

1 平均正答率

< 県全体（公立小・中学校、県立中・特別支援学校） >

校 種	教 科	A問題（知識）		B問題（活用）	
		本 県	全 国	本 県	全 国
小学校	国語	71.9	72.9	53.5	55.5
	算数	78.0	78.1	57.2	58.2
中学校	国語	79.0	79.4	49.8	51.0
	数学	66.9	67.4	59.2	59.8

< 県立中学校（3校）の平均 >

教 科	A問題（知識）		B問題（活用）	
	本 県	全 国	本 県	全 国
国語	96.1	79.4	79.7	51.0
数学	92.7	67.4	88.8	59.8

< 参考 > 平成25年度の調査結果（公立小・中学校、県立中・特別支援学校）

校 種	教 科	A問題（知識）		B問題（活用）	
		本 県	全 国	本 県	全 国
小学校	国語	60.3	62.7	46.9	49.4
	算数	76.4	77.2	57.1	58.4
中学校	国語	76.1	76.4	66.6	67.4
	数学	63.2	63.7	41.3	41.5

数値はすべて文部科学省が公表したデータによる。

平成26年度 小学6年生・中学3年生の生活習慣等の調査結果【特徴的な姿】

(全国学力・学習状況調査 質問紙調査項目 74項目からの抜粋)

	重点項目	小 学 校				中 学 校							
		平成25年度	差	平成26年度	差	平成25年度	差	平成26年度	差				
1	人の気持ちが分かる人間になりたい	全国	93.0	+1.1	全国	94.4	+0.6	全国	94.2	+1.4	全国	95.3	+1.1
		本県	94.1		本県	95.0		本県	95.6		本県	96.4	
2	人の役に立つ人間になりたいと思う	全国	93.6	+1.7	全国	94.0	+1.5	全国	93.3	+2.1	全国	94.0	+1.6
		本県	95.3		本県	95.5		本県	95.4		本県	95.6	
3	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	全国	95.9	+1.0	全国	96.4	+0.8	全国	93.5	+1.9	全国	93.4	+1.8
		本県	96.9		本県	97.2		本県	95.4		本県	95.2	
4	毎日朝食を摂取	全国	96.3	+0.4	全国	96.0	+0.2	全国	93.8	+1.8	全国	93.5	+1.9
		本県	96.7		本県	96.2		本県	95.6		本県	95.4	
5	毎日、同じくらいの時刻に就寝	全国	78.9	+3.1	全国	79.2	+2.4	全国	74.3	+4.0	全国	74.1	+3.5
		本県	82.0		本県	81.6		本県	78.3		本県	77.6	
6	毎日、同じくらいの時刻に起床	全国	90.9	+1.1	全国	90.9	+1.3	全国	92.3	+2.1	全国	92.1	+2.2
		本県	92.0		本県	92.2		本県	94.4		本県	94.3	
7	テレビやビデオ、DVDを2時間以上見ている	全国	62.5	+2.8	全国	61.3	+0.8	全国	55.5	-2.0	全国	56.5	-3.3
		本県	65.3		本県	62.1		本県	53.5		本県	53.2	
8	授業以外に1～2時間以上の学習をしている(月～金)	全国	63.2	+4.8	全国	62.0	+3.3	全国	68.6	+3.6	全国	67.9	+1.3
		本県	68.0		本県	65.3		本県	72.2		本県	69.2	
9	テレビゲームを2時間以上使用する(月～金)	全国	28.2	-5.5	全国	30.3	-7.1	全国	27.5	-6.8	全国	35.4	-8.6
		本県	22.7		本県	23.2		本県	20.7		本県	26.8	
10	解答時間は十分だったか(国語B)	全国	57.0	-11.2	全国	50.6	-7.8	全国	75.9	-7.5	全国	79.5	-6.7
		本県	45.8		本県	42.8		本県	68.4		本県	72.8	
	解答時間は十分だったか(算数B、数学B)	全国	68.3	-8.6	全国	76.4	-6.3	全国	58.3	-11.1	全国	77.7	-7.3
		本県	59.7		本県	70.1		本県	47.2		本県	70.4	

2 結果の総括

小・中学校ともに、正答率は全国平均を下回っているが、小学校ではその差が小さくなり、改善が見られる。

小・中学校とも、文章記述を要する問題に課題が見られる。

前年度の県学力調査結果に見られた四則混合の計算などの課題については、改善が見られる。今後とも全国と県の2つの学力調査を関連付けながら課題改善に取り組む。

基本的な生活習慣は身に付いており、規範意識は高い。

3 各教科の状況 (:改善が見られる事項 :課題となる事項)

< 小学校国語 >

継続課題であった「二文を一文に直す」こと

A問題（知識）

故事成語の意味や使い方を理解すること

B問題（活用）

根拠になることを資料から引用し、立場を明確にして、自分の考えを書くこと

< 小学校算数 >

分数の減法、四則混合の計算をすること、人の混み具合（1 m²当たりの人数）を求めるために除法を用いること

A問題（知識）

平行四辺形を作図する時に、平行四辺形の性質が用いられていることを理解すること

B問題（活用）

示された日課表と複数の条件を基に、時間を求めること

< 中学校国語 >

漢字の読み書きや慣用句等の基礎的事項を習得すること

A問題（知識）

主語を変えて、適切に文を書き換えること

B問題（活用）

根拠となる本文を引用したり、要約したりして自分の考えを書くこと

< 中学校数学 >

線分の垂直二等分線の特徴を、その作図方法に結び付けて捉えること

A問題（知識）

円柱と円錐の体積の関係について理解すること

B問題（活用）

与えられた図形の角度を求めるために、その図形について証明した事柄を用いること

4 質問紙調査の状況（ : 良好な状況 : 改善を要する状況）

< 本県児童生徒の特徴的な姿について >

「人の気持ちが分かり、人の役に立つ人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけない」と思っている児童生徒の割合は、非常に高い。

「朝食を毎日食べる」「決まった時間に起床・就寝」の割合は、共に全国平均を上回っている。

「テレビやビデオ、DVDを2時間以上視聴している」割合は減少しており、中学校と比べ小学校の減少幅が大きい。

「授業以外に1～2時間以上の学習をしている」割合は、全国平均より高いものの、減少している。

「テレビゲームを2時間以上使用する」割合は、全国平均より大幅に低いものの、増加している。

B問題（活用）において「解答時間が不足している」割合が全国平均より非常に高い。